

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	270101306		
法人名	社会福祉法人桐紫苑		
事業所名	グループホームたもぎの		
所在地 (電話番号)	〒030-0943 青森県青森市幸畑字阿部野50 - 1 (電話) 017 - 738 - 6660		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 1月 15日	評価確定日	平成 21年 3月 24日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 12月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤	11人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 ~ 30,000 円	その他の経費(月額)	冬期6,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	8 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニックこころの森、ミナトヤ歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺には住宅がなく企業の建物が主であり、地域密着型の取り組みが行いにくい環境にある。しかし、隣の地域との関係作りや連携作りに努め、役割を果たそうと積極的な取り組みの姿が伺える。ゆったりとした雰囲気ของกลุ่มホームで安全を第一に安心して生活できる環境を整えようとし、共通した認識を持って職員が対応している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題については契約書等の日時、署名、捺印について整備されている。また、外に出たいと話す入居者には付き添い外を散歩するようにし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員個々で日々の介護の振り返りを含めて行い、介護支援専門員が取りまとめ作成している。職員も含め安全に安心してゆったりと生活してもらうこと、入居者に負担がかからないことに留意して改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月ごとに運営推進会議が行われている。会議では、避難訓練での設備の確認、必要物品等の報告が行われ、主にホームからの情報提供になっている。参加者からの意見で改善や変更となった事項はないため、今後は参加者の意見を吸い上げると共に事業所への協力が得られるよう取り組んでほしい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>苦情対応については法人全体でマニュアルを作成して対応している。入居者の介護計画にも家族の意見が反映されるように面会時に情報提供、意見の抽出に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人内にほか2箇所グループホームがあり、連携が取れるようになっている。時々来居者が来るものの今後もほか2箇所のグループホームとの共同行事や共同で地域との連携が図れるように工夫をして取り組んでいただきたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての基本理念以外にグループホーム独自に目標をかけた取り組みがなされている。安全に生活ができるようにと転倒しない介護を意識して取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3ユニット全体で行うミーティング以外にも各ユニットでもミーティングを実施し、その中で理念を共有し、日々のケアに反映している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の婦人会とのかかわりを持っている他、法人本部からは町内の回覧板を回してもらっている。また、町内の住民には行事への参加を呼びかけている。外回りや窓の掃除、夏場の行事などにボランティアを受け入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は各職員で行い、とりまとめをしている。前回評価の結果について触れる機会がなく、取り組みが計画的になされていない状況である。</p>		<p>今後は外部評価の結果について職員に説明し、運営推進会議でも報告するなど、積極的な取り組みを期待したい。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一度、定期的実施されている。会議では避難訓練など、ホームからの情報提供が主なものになっている。</p>		<p>会議内容が参加者との双方向なものとなるよう取り組みを期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>南包括センターとは密に連携が取れている。センターで行っている会議に参加して連携、情報収集に努めている。生活保護受給者もあり、市の担当者とも連絡を密にして取り組んでいる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用している入居者がおり、対応している。</p>		<p>成年後見人制度で後見人等ができること、できないことを理解した上での今後の活用に期待したい。積極的な勉強会の開催、研修会の参加を期待したい。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待をしないように職員には指導が行われている。虐待防止に関する研修に参加しているが、他職員に伝える機会がない。</p>		<p>復命書やミーティング等で職員に伝達する機会を設けるなど積極的な取り組みを期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書にてサービス内容を説明している。説明後、利用者、ご家族から承認を頂いている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用料を振込みではなく、現金で持ってくる家族が多いためその際に生活状況等を随時報告している。面会に来ることが少ない家族へは生活の状況の連絡方法として広報誌の配布時に手紙を入れるなど工夫している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情対応については法人全体でマニュアルを作成して対応している。ホーム内に「苦情箱」を設置しているが、なかなか家族からの意見が寄せられていない。</p>		<p>苦情とまでは言えないが、気になっている事についても家族が意見を寄せやすいよう「苦情箱」のネーミングを工夫したり、積極的に声がけしたりしてはどうでしょうか。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>大幅な異動はせず、また、利用者への影響を配慮しての異動体制を図っている。また、十分な引継ぎをすることにより、利用者には不安を与えないようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については書類が観覧され、参加を希望する職員は勤務を調整し、参加できる体制がとられている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームがほかにあり職員同士の交流はできている。法人外においても年数回交流を持つ機会がある。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にグループホームを見学する機会を設けたり、入院中の場合は入院医療機関へ面接に行く等関係作りに努めている。また、本人が使用していた椅子、筆筒、仏壇の持込を行い馴染める雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に季節の山の幸を取りに行ったり、日常生活でも調理の仕方や掃除の仕方等を教えてもらったりして、尊厳ある生活が送れるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報を大切にし、入居後、徐々に家族から利用者個々の生活歴等の情報収集に努め、居心地のよい環境づくりに心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送りやミーティングの機会でも意見交換や個人チャートに記入する等して介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月に一回の見直しを実施、モニタリングを行っている。しかし介護サービス計画(1)がファイルされていない。		モニタリング用紙には「修正」に記入しているが、介護計画が全く変更ない状態。家族の意見をとりあげての計画作成とアセスメント、モニタリングと連携した介護計画の作成、更新を行っていただきたい。また、ファイリングも確実に行っていただきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他施設にある温泉の利用を行っている。緊急時の受診は職員で対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診を基本として主治医と連携をとりながら対応している。また、24時間体制で医療関係と連絡を取り合いスムーズに対応している。(協力医の変更が数ヶ月前にあり今後よりよく連携がなされると感じます)</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時には家族に詳細な説明は控えている。入院する等状態に変化があった際、グループホームで受け入れができるかできないかは管理者が方針を決めている。</p>		<p>今後は関係者間で話し合い、できるだけ早い段階から家族に説明できるよう取り組んでほしい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いについての同意を得て、プライバシー保護に取り組んでいる。言葉遣いのマニュアルを整備するなどして入居者の尊厳に配慮している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の一日の流れに合わせ、その人らしい暮らしを実現している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その人のADLや咀嚼状態を把握して食事形態の工夫、介助、見守りを行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ユニットごとに入浴日を設定しているが、前日入浴できなかった場合は希望があれば次の日に入浴できるようにする等、ユニットの枠を超えて入浴できるように取り組んでいる。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者がこれまでの生活でしてきたことのほかに入居者全員でできること(トランプ、カラオケ)を主に取り組んでいる。日常的に掃除、テーブル拭き、洗濯たみを行うことで役割の支援が行われている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>希望に応じて外出している。また、法人内の他事業所では毎月誕生会が行われており、その参加を促している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オムツ外し、弄便行為、叫ぶ行為のある入居者に拘束することをしないで排泄介助の回数を増やす等のかかり方の工夫に努めている。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の11項目についての認識が不十分である。		身体拘束していないからよいということではなく、研修会の参加や勉強会を実施して理解を深めるようにしていただきたい。
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	実際に熊が出たことがあり夜間は施錠している。日中は施錠せず、外に出たい入居者とは共に外に出て散歩するようにしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施し、反省点を取りまとめている。そこから、避難用のスロープ設置や避難マップ作成、スプリンクラーの設置を今後検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士により献立が作成されており、献立をもとに調理を実施している。また、一人ひとりの食べる量や水分量を記録し、把握している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食中毒の張り紙を掲示し、手洗いとうがいの徹底や口腔ケア、入れ歯の洗浄を実施して予防に努めている。毎年インフルエンザ予防接種を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地の良い空間作りがされている。また、全体的に広く開放感が感じられ、浴室やトイレはハード面に使用しにくいところはあるものの現在の入居者が使いやすいように介護者が補助をしたり、その都度可能な範囲でものを設置する等工夫が見られる。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は入居者が使い慣れたタンス等が設置され、住み慣れた空間を作り出している。</p>		

 は、重点項目。